

## 北広島団地内小学校の統合についての報告会

と き 平成 21 年 1 月 30 日 (金)

ところ 若葉小学校 多目的室

じかん 19 : 00 ~ 20 : 25

参加者 31 名

市長部局            企画財政部長 高橋 通夫  
                         子育て担当理事 岩泉 功一  
                         建設部長 二見 孝二

事務局                教 育 長 白崎 三千年  
                         管理部長 小菅 敏博  
                         教育施策推進担当参事 工藤 正  
   主査 川合 隆典  
                         教育相談員 宮村 昭

- 
- 開 会                            19 : 00                            進行司会 小菅部長
  - 出席者自己紹介            19 : 00 ~ 19 : 05
  - 教育長挨拶                    19 : 05 ~ 19 : 10  
   北広島団地内小学校の統合及び本日の報告会の主旨説明
  - 統合決定までの経過について説明 19 : 10 ~ 19 : 30  
   工藤参事から、資料に基づき説明
  - 参加者からの意見、質問 19 : 30 ~ 20 : 25

事務局 それではこれから質疑応答に入らせて頂きます。

住 民 完璧な説明であると思いますが、何年も前から子どもが減ってきており、北広島団地の人口も減っていく中で、今日の新聞をみますと、団地活性化委員会ができたことが報道されています。また、道営団地の件も出ておりました。団地の児童数が減少するという問題と、まちづくりとの協調性というのがどうもアンバランスに感じるのです。小学校 4 校が 2 校になるということが何故よいのかということとは色々聞いてきました。部活ができない、しかし、現実には高台小学校は 2 学級で、減少していくという状況にあります。こういう状況の中で、24 年に新しい制度ができるのでしょうか、2 校ある中学校の論理が表に出ていない。小学校の議論が終わってから中学校の議論をするのでしょうか、まちづくりと教育委員会の学校統合問題のバランスが取れていない気がするの

ですが。

事務局 市内全体の児童の状況がどうかという観点で、通学区域審議会で議論をしていただきました。北広島市だけではなく、全国的に急激に少子化の傾向が進んでおります。このため、議会でも議論がありましたし、教育委員会でも児童数の動向も調査し検討してきた経過があります。まちづくりとの関係というお話がありましたが、市では、総合計画を策定し、様々な施策を展開してきておりますが、残念ながら少子化の傾向を止められない状況にあります。そうしたことから、今お話がありました別な角度から、そうした委員会を設置し、色々と検討をしている状況にあるということです。今までの状況は状況として、今後は市全体として考えていくということで押さえております。

住 民 団地活性化委員会が結成されたわけですから審議するでしょう。道庁は道庁で、輝美町、高台町の道営団地の審議をするでしょう。その整合性がとれているかということです。例えば、平成元年に大曲東小学校ができました。私は当時の教育長に、北広島の子どもの減少してきているから、大曲も過渡期を過ぎたら必ず減少してくるのでスクールバスで対応したらよいのではないかといいました。教育長は、公平の原則を守って地域に学校をつくらなければならないといって大曲東小学校ができました。根拠はわかりませんが、北広島市には1小学校1幼稚園という基準があります。大曲で、幼稚園の認可申請があったとき、児童が減っていくので幼稚園経営ができなくなるという反対運動がありました。民間サイドでは、平成元年当時、経営面から児童数の動向については理解し合っています。しかし、公平の原則を守るということから大曲東小学校ができました。大曲東小学校も10年もしないうちに減っていくでしょう。行政は問題が生じてからついていくのか。団地の活性化の問題、高台、輝美町の団地の問題、道も立ち上がると思っていますから、その整合性が見えないのです。全国がこうだからという答弁は理解できないのです。北広島団地内をどうかしなければならないという気持ちと、教育委員会のバランスがあっていないような気がするのです。

事務局 我々は、全国的な状況、周辺の状況、そして北広島市の状況を考えて、教育委員会だけでなく、市と一体となって考えてきておりますし、今後もそういう形で考えていきたいと思っておりますのでご理解をお願いいたします。

住 民 考えが固まっていないのに決定してよいのですか。

事務局 我々は、市民の皆様に色々な角度からお話を聞きくとともに、状況を調査・検討を行ってきておりますので考えが固まっていないとは考えておりません。

住 民 統合反対と言っているわけではありません。状況をみればしかたがないのですが、中学校は2校あるわけですが、2校あわせても東部中学校より少ない状況にあります。なぜ、同時に行っていないのか、小学校の問題が終わってから3年も4年もかけていくのですか。小学校4校を2校にするなら、中学校2校を1校にする根拠を作って市民に順次説明し、一緒にやるべきだと思うのです。

事務局 教育は100年の大系というように、子どもの将来もさることながら、地域の環境を

見通しながら、教育環境を整備すべきという基本的な考え方に基づいたご意見だと思います。北広島市は、地域分散型のまちであります。その地域の実情に合わせながら、教育環境の整備を考えなければならないのも一つであります。北広島団地内の人口と、過去10年間の子どもの状況を振り返ってみますと、緑陽小学校、若葉小学校は1学級で推移してきております。まちづくりに素晴らしいアイデアができて、多くの若い人たちが住み着いて児童数が急激に増加するという事は、今の人口の推移からはなかなか考えにくい状況にあります。そうしたなかで、子どもたちに豊かな教育活動を提供することは重要であり、その環境を提供するのは教育委員会の責務であります。そこで、まちづくりとの整合性が全く図られていないという指摘がありますが、我々が今後推計可能なのは、0歳児までです。その子どもたちを見据えながら環境を整備していくのが精一杯の状況です。まちが活性化されたとき、まちが大きくなったときの見通しが無いといった指摘に対しまして、明確な回答をすることはなかなか難しい面があります。

過去の流れと、今後を推計しながら今の子どもたちの環境を整えるのが私たちの仕事と考えています。この点につきましては、議会でも、平成14年、15年と議論されております。このままで本当に良いのかということです。勿論、今お話がありましたように、団地の方々から色々の問題提起がありまして、活性化についての討議もする、道でも集合住宅の見直しを図ろうとしていることもありますが、そう簡単に、急激に児童数が増加するとは予想しにくい状況にあります。科学的データに基づいてご説明できればと思っておりますが、なかなか難しい面もあると思っております。

住 民 さきほどの説明で、平成17年から検討をしてきていたことが良くわかりました。小学生も人数が少ないよりは、集団が大きくなる中で、学校生活をおくることがプラスになるだろうということも良くわかりました。私の子どもはもう大きいのですが、若葉町に住んでいますので地域の子どもたちが学校を変わることなく、小学校に通うことができ、内心では良かったと思っております。統合となっても若葉小学校が残って良かったと思っております。

しかし、1番心配なのは、広葉小学校に子どもさんを通わせている保護者の方がどのように思っているのかということです。その心配が、別な計画によって良い方向で進んでいけば良いと思っております。率直にお聞かせいただければと思います。

事務局 私どもも、これまで違う環境で生活してきた子どもたちが一緒になることにより、子どもたちだけではなく、保護者の皆さんも不安をお持ちであると思っております。そうした点をとり除くために、教育委員会として統合準備協議会を設置することや、実際に統合に向けて交流事業をするなどしていきたいと思っております。まずは、校名や校歌をどうするか、お互いの学校、関係者が意見を出し合って、一つずつ積み上げていって新しい学校をつくりあげていく段階で不安を解消し、皆様に納得していただける学校にしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただくとともにそうした場面ではご協力をいただきたいと思います。

住 民 広葉小学校区の保護者、あるいは子どもさんたちの心配事を教育委員会として汲み取っているのか。広葉小学校区の方で説明会があったと思いますが、さらにどういう問題が出てきているのか。若葉小学校の校舎は残っている。近いから良かったというのでは心苦しい。その辺を教育委員会では、どの程度問題点があって、どのような回答をしているといったことがあれば聞かせていただきたい。

事務局 今まで 30 回の説明会を行いました。若葉、緑陽、高台小学校区におきましては 3 回、広葉小学校区におきましては反対の意見もかなりありました。そうしたことから、広葉小学校区では 4 回の説明会を行っております。それでも、なかなかご理解いただけない面がありました。平成 20 年 9 月の教育委員会会議には、説明会の状況、どういう点が課題として残っているのかを含め報告しております。広報にも掲載しておりますが、教育委員会と保護者の方々とで論点があわない点があったというのは事実であります。その中で、通学に関することを含め 3 点程に論点が絞られているのではないかとということから、今回の決定に至ったという経過があります。まず、通学距離であります。教育委員会では、新たに通学路となると思われる道路の調査を何度も行い、時間、距離について測定も行いました。その結果、通学距離が最大となる地区で約 1.7 km でしたが、この距離に関して、当初は疑問が出されておりました。また、保護者の方々と実際に歩いているのですが、1.7 km であるが、通学時間がいくらかかっても問題がないと教育委員会としては考えているのかという意見もだされておりました。教育委員会としては、市内の他の学校や管内の状況などから、児童に大きな負担を与える距離ではないのではないかと考えていますが、そうした点でなかなか論点がかみ合わない点がありました。こうした点につきましては、教育委員会会議で再度議論をしております。

次に、通学時の安全対策についてです。統合後、駅周辺の高層住宅の児童はトリムコースを通ることが予想されます。保護者の方々は、通行する人も少なく、不審者に対する不安があるという意見が出されています。私どもでは、朝の通学時間帯の通行量も確認しておりますが、払拭できないという状況にありました。また、登下校時だけでなく、早退、あるいは遅刻する場合もあるので、そうした場合も含めて安全対策を示していただければ納得できないといった意見が出されています。

次に、使用する校舎についてであります。通常、統合は小さな学校が大きな学校に吸収合併されるのではないかと。人数の少ない学校が統合されることにより、通学時の安全性も高まるのではないかと意見が出されています。しかし、今回の統合では、通学距離は児童に大きな負担を与える距離ではないと考えています。また、校舎については現状の校舎を使用することを前提に検討を進め、どちらの校舎を使用することが児童にとってより良いかという視点に立って、教育委員会としては比較検討し、判断をしております。比較するための項目を定めましたが、児童数の多い学校の校舎を使用するのが一般的ではないかという意見が出されて、論点がかみ合わない点がありました。そうした点を含め、再度教育委員会会議で議論をし、若葉小学校の校舎を使用するのが妥当であ

るとの結論となっております。

住 民 広葉小学校区の報告会はどうでしたか。

事務局 教育委員会の考え方に納得できないという方もおられましたが、子どもたちのことを考えると止むをえないという意見も出されていました。

広葉小学校区では4回の説明会を行っております。ほとんどの説明会では、圧倒的に反対という意見が多いという状況でした。そういう経過を踏まえ、今回報告会を行いました。賛成の意見も反対の意見もありましたが、議論が進んでいくにしたがい、反対の意見が少なくなってきたと私どもは感じています。昨日の報告会では、地域の方が多く保護者の方が少なかったという特色がありました。

住 民 広葉小学校区の状況がどうなのかというのが1番気になっていた点です。11月21日の教育委員会会議を傍聴することができましたが、広葉小学校区の方々は納得されていない状況であり、このまま進んで数年後仲良く新しい学校を作っていくことができるか心配があります。仮に、自分の子どもが広葉小学校に通学するとした場合、1番気になるのは安全面。トリムコースは、交通上は安全ですが、実際に中学生の女の子は被害にあっています。厚別署から送られるメールでも時々被害がでていることを他の保護者から教えてもらうことがあります。そうしたことを保護者の方は知っていて不安を持っています。それを4年後の統合までに、安全になるように進めていってもらわなければ親の立場からすれば、快く新しい学校に参加できないと思います。どう安全対策をとるのか、統合準備協議会なり、町内会なりを含め具体化していただきたいと思います。

児童会の交流ということがありました。1年程度というお話でしたが、1年程度でうまくいくのでしょうか。確かに教育課程も色々変わり、授業数も増え、先生方も忙しくなる中で統合を進めていく時期ではありますが、たった1年で心の中が理解できるか不安です。そうした点については、もう1度詳しく検討していただきたいと思います。

11月6日の教育委員会会議の統合に関する事の中で、市内全体のことを考慮すると市単独の学級編成は難しく、現行制度を基本としていくことと書いています。つまり、学級配置は今までどおりかわらないということです。新しい学校になったときの1年から6年までの児童数は何人ずつで、何学級になるのでしょうか。また、2、3年後に入学する児童数もわかると思いますが、統合した後でも教育環境はさほど変わらないと教育長が審議会で答弁されていたと思います。現状の若葉小学校の先生方の目が行き届く環境と、統合後の環境が本当に変わらないといえるのでしょうか。そうした点について、児童数と先生の配置など具体的に教えてください。

それと、統合しますと子どもたちはどうしても不安になると思います。説明会のときに、子どもたちの心の安心のために加配の先生をつけていただけないかをお願いをいたしました。そのとき、教育委員会ではなるべく努力をしたいと回答されました。そのことについては、実現可能なのか、これから4年間かけて努力するという事なのか、回答をお願いいたします。

最後ですが、11月12日の教育委員会会議のその他の中で話されたことなのですが、統合したら教育費が削減されるのだから、その分を市内の子どもたちの教育条件の整備・充実に使用していただきたい、との発言を聞きました。実際にはどのように活用するのか、今の段階でわかるのであれば教えていただきたい。

事務局 安全面についてでありましたが、安全面につきましてはすべての校区で出されておりました。その中で、お答えしてきているのは、行政だけで確保していくことは困難だと認識しています。当然、行政が対応する部分もありますし、現在、それぞれの校区で、地域の方々、保護者の方々が側面的にお骨折りをいただき対応していただいております。様々な団体も活動され、地域の皆様によって子どもたちが守られているという状況もありまして、私どもは非常に感謝しております。そうしたボランティア活動的なことが、今お話されていた不安に対する抑止力にもなっておりますし、これからも行政、地域の皆さん、学校、保護者の皆さんと力を合わせて不安解消に努めていきたいと思っておりますのでご協力をお願いしたいと思っております。

次に、児童の交流期間ですが、24年4月から新しい学校をスタートしていきたいと決定しております。これからの3年間の長いのか短いのか、色々なお考えがあると思いますが、積み上げていかなければならないものも色々ありますので、段階を踏んで検討すべきことを整理していかなければなりません。児童間の交流につきましては、できるだけ長く、多くのことを実施していきたいと考えておりますので、1年間に限定したものではありません。

次に、加配のお話ですが、今後環境が変わる可能性もあり、その時点にならなければ明確なことは言えませんが、説明会でもお答えしておりますが、教育委員会では授業補助員制度といったものもあり、そうした制度を活用するなどして、その時点で精一杯取り組んでいきたいと考えております。

統合後の学級編成・児童数ですが、平成20年5月時点での推計では、平成24年度の広葉小と若葉小の統合後の児童数は380人、学級数は12、平成25年度の児童数は378人、学級数は12、平成26年度の児童数は366人、学級数は12となっております。学級数に対する教員数ですが、加配とかを考えない標準の教員数は12学級の場合は15人となっております。

そして、財源的なことについてであります。教育委員会の中で議論がありました。市内には16校の学校がありますが、教育委員会ではできるだけ教育費に財源を付けていただく努力しておりますのでご理解をお願いいたします。

住 民 質問のしかたが悪かったのですが、できれば児童数につきまして、1年生が何人、2年生が何人というふうに教えていただきたいと思っております。なぜかといいますと、クラス内の児童数というのはとっても大事なのです。若葉小学校の良いところは、クラスの人数が少なくて先生の目が行き届いているというところにあります。それが残るのか気になる場所なのです。

事務局 平成24年では、1年生が52人、2年生が64人、3年生が76人、4年生が66人、5年生が62人、6年生が60人、平成25年では、1年生が58人、2年生が52人、3年生が64人、4年生が76人、5年生が66人、6年生が62人、平成26年では、1年生が50人、2年生が58人、3年生が52人、4年生が64人、5年生が76人、6年生が66人となっています。

住 民 今後4年でどのように変わるかわかりませんが、今の時点で考えても、平成24年の3年生は1クラス38人になります。若葉小学校は、1クラス38人もいないと思います。統合したときに1人の先生が見る割合は減ると思いますので、先生の加配をお願いしたいと思いますので宜しくお願いいたします。

事務局 他にございませんでしょうか。無いようですので、報告会はこれにて終了させていただきます。

教育長 先ほどお話が出されていましたが、昨日の報告会の中で、貴重な意見が出されてきました。

今の子どもたちにとって、環境を整備するということはどういうことなのか十分考えて欲しい。子どもたちは、能力ある子どもから学びあう要素もありますが、弱みを抱えたお子さんに対する思いやりといった人間関係をどうするのか。そういう熱い思いを語っていただきました。

教育をとりまく環境は、ひと頃より難しい状況になってきています。一人ひとりの願いや思い、あるいは子どもに対する教育の施し方などについて大きな課題になってくると思っています。集団が大きくなることによる良さ、集団が大きくなることによる課題、新しい学校づくりに向けてはそのことを先生方と十分協議しながら進めてまいりたいと思います。そのためには、保護者の皆様方、地域の皆様方と一体となって学校が営まれていかなければならないと思っています。そうした難しい状況もたくさんありますので、保護者の皆様方、地域の皆様方どうか宜しくお願いいたします。

(注) 発言を要約したものであり、発言すべてを記述したものではありません。